「たんぼにまつわる話」29.

「カスミサンショウウオとの出会い」

十川巡一

岡山市北東部にある小さな村の棚田のまわりは、私にとって良い遊び場でした。上手のたんぼは、やねみぞの一番端に高さ約１mの小さなほこらがありいつも水が滴り落ちているのです。下には葉のついた苔が沢山生えていて水に濡れキラキラと光り、ジーと見ていると、子供の私には幻想の世界にいるように思え、一番好きな場所でした。

また、その頃はヤマカガシやシマヘビもよく捕まえて遊んでいました。（アオダイショウは食べようと思い料理したが肉が臭くて食べられなかった。）蛇はたんぼの石崖の上で、あぜの傍にテイカカズラやチガヤなどが生えているのを巧みに使い、体をよじりながら脱皮します。ぬけがらを見つけると、とても嬉しかったのを覚えています。

そして、何気なくやねみぞの石を「何かいるかな」と思って、はぐって遊んでいると…いました？最初は「イモリかなあ」と思いましたが腹が赤くなくて見たことのない生きものでした。しばらく考えて、「そうだ！これはサンショウウオの仲間に違いない」と、子供心にそう思い込み、こんな小さなサンショウウオもいるんだと思うとチョットびっくりしましたが、そっと石の下に返してやりました。その後も裏庭の溝の石の下とかで時々見かけました。イモリは腹が赤く毒々しいマダラ模様をしていたので、毒が有る様に思えてつかむことが出来ませんでしたが、この小さな生きものは平気でつかむことが出来ました。やがて日が経つにつれその存在は忘れてしまいました。

いよいよ秋の刈り入れの時期が来ました。私も手伝いに出かけ、稲刈りの時の稲のつかみ方を祖父に教えてもらい「ザクッザクッ」と、ノコガマで気持ち良く稲を刈り取り、腰に結わえたワラで１束ずつくくります。腰を曲げているのでだんだん腰が痛くなり、時々体を起こして腰を伸ばすと「イタタタッ」とおもわず声が出ますが、その内痛みが快感に変わり腰を伸ばした時の気持ちの良いこと？そしてまた「ザクッ」と勢いよく刈ったその瞬間！稲の株の中から体をくねらしながら何かが出てきました「ドキッ」として思わず後ずさりをしてよく見ると、あの小さなサンショウウオではありませんか、「切らなくて良かったー」ホッと胸をなでおろしました。（本当に腰が抜けそうなぐらい驚きました。）

切り取った瞬間に出てきたカスミサンショウウオ

大人になってから解ったのですが、それがカスミサンショウウオだったのです。カスミサンショウウオもたんぼの恵みを受けている生きものだったのです。たんぼのまわりのやねみぞや小さな池などに産卵します。2月中旬から3月中旬に産卵するのです。最近でも休みの日は時々行ってみます…“今年もありました”いつも見つけるのは3月中旬です。時にはすぐ傍に雄がいるときもありました。それは、雄は卵を守りながらしばらく卵の近くにいるのです。そして、あわよくば…もう一つの恋が芽生える可能性もあるそうです。5月上旬に水の中の、枯れ葉などをソーとはぐると、2.5cmぐらいになった幼生がチョロチョロと動きます。捕まえてケースに入れ正面から見ると、ウーパールーパーのようでとても可愛いんですよー。7月下旬にはその姿も見られなくなります。林の中に入って行ったのでしょう。５年ほど過ぎると、大人の仲間入りをして春のいとなみに参加するのです。それまでは湿った枯木の下とか石の下で一人で、いや一匹でひっそりと過ごします。

４月中旬のカスミサンショウウオ幼生